

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-192955

(P2005-192955A)

(43) 公開日 平成17年7月21日(2005.7.21)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

A61G 5/02

A61G 5/00

F I

A61G 5/02 509

A61G 5/00 510

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2004-27385 (P2004-27385)

(22) 出願日 平成16年1月4日(2004.1.4)

(71) 出願人 504043185

中摩 俊輔

福島県いわき市平下平窪曲田1丁目1番地

大和コーポ東棟1-1

(72) 発明者 中摩 俊輔

福島県いわき市平下平窪曲田1丁目1番地

大和コーポ東棟1-1

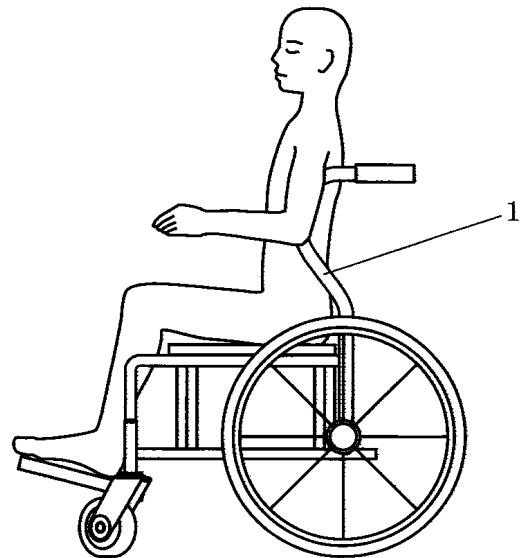
(54) 【発明の名称】 体姿勢保持力の高い車椅子・バギー・座位保持装置等の背面のパイプ形状

(57) 【要約】

【課題】 車椅子・バギー・座位保持装置等の姿勢保持の機能を高める。

【解決手段】 背面のパイプ形状を座る方の体幹側面までサポートする特殊なパイプ形状1にすることによって解決する。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

背もたれの特殊なパイプ形状を持ち、そのパイプによって構成される背面・側面が、車椅子・バギー・座位保持装置等に座る対象者の姿勢保持に高い効果を発揮することを特徴とする。

**【発明の詳細な説明】****【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

10

本発明は、車椅子の背もたれパイプ形状を、単なる直線形状によって構成されているものではなく、体幹の側面まで保持する、独特の形状にしたものである。同時にその形状は腰椎の自然な前湾を保持することを容易にしている。

**【背景技術】****【0002】**

従来車椅子の背もたれのパイプは、人の体幹の側面に対してまで保持するものは無かった。

**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

20

姿勢の保持をより安定化させることによって、今まで体幹の保持が安定しないために、ベルト等によって拘束せざるを得なかった方々にも安心して車椅子に乗せることができる。

また、将来に脊柱が側湾する危険性を持つ方々にも、側湾の予防の一つとして意味をもつ形状である。

**【課題を解決するための手段】**

車椅子の背もたれのパイプ形状を、車椅子使用対象者の体幹の側面を通る特殊な形状とする。

**【発明を実施するための最良の形態】**

車椅子の背もたれのパイプをパイプベンダー等により車椅子使用対象者に適合した形に曲げる。

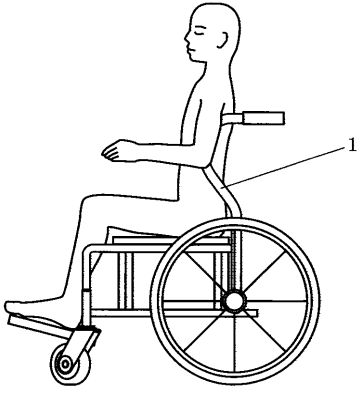
30

**【実施例】****【発明の詳細な説明】****【図面の簡単な説明】**

【図 1】車椅子の側面図である。

【図 2】車椅子の背面のパイプ形状が、人間の腰椎の前湾に対していかに効果を与えるかを表す図である。

【 図 1 】



【 図 2 】

